

近年、超高齢社会を迎え高齢者歯科医療と共に在宅歯科医療も増加傾向になってきているようです。厚生労働省の歯科保健医療のニーズ動向によると、在宅歯科医療・高齢者歯科や摂食・嚥下といった高齢者歯科医療の充実が求められ、義歯の質的需要が高度化してきています。また、歯科医療現場も高度に発達した歯科医療技術の進歩により、歯が喪失した無歯顎者の疾病構造も著しく変化してきていると思われます。義歯製作もより簡便で、客観的な根拠から効率的な“二義的人工臓器義歯”の製作システムとなる供給体制が求められています。

そこで今回平成30年4月15日に開催される東京都歯科技工士会生涯研修基本課程では、無歯顎臨床で最も重要な要素である印象採得と咬合採得から得られた咬合位（垂直的・水平的）下顎位を考察し、歯冠修復学・インプラント補綴にも役に立つ仮想咬合平面の設定基準について考察したいと考えています。

また同時に、症例を担当する歯科技工士も歯科医師の診断と治療計画をよく熟知したうえで、各ステップを慎重に進めなければならないと思います。印象体を大別すると、概形印象体と機能印象体に分類され模型上に表現された組織を十分熟知した模型分析が重要であります。

次に仮想咬合位(Tentative Bite)と仮想咬合平面(Tentative Occlusion Plane)の考察も大切であります。

異なる臨床症例に対する咬合平面の設定基準と咬合彎曲の与え方について生理学的、力学的に考慮した部位に人工歯排列を行い、口腔内に調和した咬合と咬合様式を付与することが大切であります。

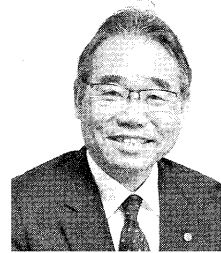
セミナーでは、生体に立脚した客観的な義歯の咬合について考察してみたいと思います。

教養課程では、これからの歯科医療における歯科技工士のあるべき姿について課題を提案し、時間の許す限り聴講して戴いた皆様と共にディスカッションを交えて少しでもお役に立てれば幸いです。

■講師略歴

佐藤 幸司

[さとう こうじ]



略歴

1950年 大分県湯布院出身
1975年 大分県歯科技術専門学校卒業
納富哲夫先生に師事（霞ヶ関歯科ポストグラジュエートセンター）
1985年 佐藤補綴研究室開設（名古屋市）
1988年 イエテボリ大学・フローネマルク・インプラントコース受講修了
1990年 名古屋市立大学医学部第一解剖学教室入局：研究員（2006年まで）
1996年 愛知医科大学病院歯科口腔外科：非常勤歯科技工士
2002年 Ivoclar Vivadent BPS 公認 国際 Instructor
2003年 明倫短期大学専攻学科臨床教授
2009年 台北医学大学口腔医学院臨床教授（2010年まで）
2010年 大阪大学歯学部附属病院招聘教員（2016年まで）
2017年 神奈川歯科大学大学院歯学研究科全身管理歯学講座非常勤講師

著書

『効率的な総義歯製作の技法』（共著・1998年 第一出版）
『初心者のための総義歯製作法』（共著・1999年 クインテッセンス出版）
『下顎吸着義歯とBPS パーフェクトマニュアル』（著・2011年 クインテッセンス出版）
『技工に強くなる本』（共著・2012年 クインテッセンス出版）
『超高齢社会を見据えた：パーシャルデンチャーの製作』（編著・2016年 医歯薬出版）

所属学会

◎（一社）日本歯科技工学会評議員（学会認定：専門歯科技工士）
◎（特定非営利活動法人）日本顎咬合学会歯科技工士部会部員（指導歯科技工士）

【役職歴】

◎元・（公社）日本歯科技工士会理事
◎元・（一社）愛知県歯科技工士会副会長
◎元・愛知県歯科技工士連盟監事
◎現・愛知県歯科技工士連盟相談役（2016年～）

MEMO